

高知大学理工学部 4年

山内 大貴

## 1) はじめに

私は、8月8日から10日までの3日間、香川県東かがわ市旧福江小学校で開催された、ジオカレッジ夏スクール2024にTA（ティーチングアシスタント）として参加しました。昨年に引き続き、大学の先生方による授業・工作・朝のラジオ体操・天体観測・盆踊り・生徒による発表などが行われました（写真）。私は、昨年のジオカレッジ夏スクールにもTAとして参加し、とても面白かったので、今年も参加させていただきました。今回は、夏スクールに2回参加してみて、どのような違いを感じたのかを書いていきたいと思っています。



写真 生徒たちの発表の様子

## 2) 児童・生徒と自分自身の成長

今回、2回目の参加を通じて感じた違いについてお話しします。特に、児童や生徒の成長を感じました。このイベントは今年で3回目の開催となりますが、初めて参加する子も多い一方で、昨年からの継続参加者も多くいました。昨年からの継続参加者は、授業への取り組み方や発表の質にお

いて成長しており、彼らの成長を見ることができたのは大きな喜びでした。特に、彼らが自発的に活動し、新しい知識を積極的に吸収している姿は、TAとしてのやりがいを感じさせるものでした。

また、私自身も2回目の参加ということで、昨年よりも積極的に行動できたと感じています。昨年は初めての参加で不安もありましたが、今回は事前にしっかりと準備を進めることで、当日はよりスムーズに業務をこなすことができました。特に、授業の進行や参加した子供たちのサポートにおいて、自分の役割を十分に果たすことができたと思います。また、昨年の経験を活かして、冷静に対処できるようになったことは、自分自身の成長として感じられました。

## 3) 感想

2回目の参加は、昨年よりも一層充実したものとなりました。子供たちの成長を見守りながら、自分自身もTAとして成長することができたと感じています。このような貴重な経験を通じて、教育の現場で働く楽しさや難しさを改めて実感することができました。

<著者連絡先>

山内大貴（やまうちだいき）

高知大学理工学部

780-8520 高知県高知市曙町2-5-1

E-mail [b213u040u@s.kochi-u.ac.jp](mailto:b213u040u@s.kochi-u.ac.jp)

TEL 088-844-8694

## 学校外教育としてのジオカレッジの意義

九州大学地球惑星科学科 4 年生

ジオカレッジ TA 前川滉樹

### はじめに

私のジオカレッジ夏スクールの参加は今回で 2 回目になり、月に一回開催されるワンデイスクールも含めてジオカレッジに丸一年関わったことになる。ジオカレッジは、子供たちにとって数ある学外教育の中の一つとして選択される。私も小学校 4 年の頃に小学校で配布されたチラシを見て 2 泊 3 日のキャンプスクールに参加したことがある。川遊びや陶芸体験、虫取り、星空観察会など普通の授業では出来ない体験ができ、修学旅行と同じくらい楽しく刺激的な体験として記憶に残った。

ジオカレッジに参加している子供たちにジオカレッジにしかない特徴を知ってもらい、その事が人生にとってどういった意味が出てくるのか今後考えてほしい。私は、3 つのことが大きな特徴だと考えた。

### 1: 体験学習と大学生

まずジオカレッジは虫取りや朝の散歩、工作、盆踊りなど“体験“を含めながらも“授業形式”を主体に置いていることが大きな特徴である。また、先生の多くは、東京大学や九州大学、高知大学といった地元ではあまりなじみのない大学の教員で構成されている。通常、大学の教員と接することは敷居が高く、遠方の大学なら尚更である。その教員が月に一回来て話が出来るというのは、受験生でなくとも、大学進学を見据えている子供や子を持つ親にとっては大変貴重な機会であると思う。地方と



都市の教育格差が強く指摘される中で主に東かがわ市に住む子供が大学教員と接することが出来るのはまたとない機会であり、このような活動が全国の地方に広まってほしい。また授業補佐員として各大学の学生も参加しており、先生と子供の間に立って身近な存在として接することが出来、大学生生活などを気軽に聞くことが出来るのは大変有益であると思う。私は大学に入学するまで大学生に接したことがなかったので、そういった進路選択に役立つ機会が子供にとって重要だと考える。これはジオカレッジの最大の特徴であり、利点であると考えられる。

### 2: 発表会

最後の日で学習したことを発表することである。子供たちにとってみんなの前で話す機会は少ないと思う。保護者や先生、他の生徒の前で、体育館の壇上に上がり発表するのは大変緊張すると思うが、将来的に必須に技能であることが多いと思うので早いうちから経験することは大変重要でいい機会になると考える。またチームの他のメンバ



図 発表準備風景 みんな工夫し、悩み、話し合っ

りとも話し合っ

### 3: 拠点・地域との連携

ジオカレッジは香川県の

東かがわ市福栄地区にある廃校・福栄小学校を拠点に活動しているが、地元で実際に住んでいる方の協力で運営されていることで、人の仕事が可視化されることが大きな特徴だと考える。例えば、朝昼晩の3食作っていただいている食堂関係者のお陰で、誰が食事を作ってくれたのか、また誰が今から食べる野菜を生産してくれたのか（ワンデイで近くの田畑で野菜やコメ作りを学んだ）を学ぶことが出来るが、都市に住むと当たり前のようにスーパーマーケットに食材が並んでおり“誰かの仕事



図 地層を見ながらの地域散策

“に気づく機会は少ない。様々な人の協力で出来ていることを知れるという意味でジオカレッジが福栄で行われていることは大変意味があると思う。また他のイベントみたいに、ある場所を貸し切って行い、終われば解散、だと住民の生活している様子を知ることが出来ない。ジオカレッジが終わっても福栄地区を訪れれば普通に生活があると知れるのは大変重要であると思う。

**学ぶこと** ジオカレッジのジオは geology という意味で、スクールを通して広い意味で地質学に関することに触れることが出来る。今回も、「河川システムと堆積作用」「造山運動」「液状化」「地震と建造物」「海洋の熱塩循環」について実験を通して学習し、朝の散歩でも地層の観察をした。

「地学」は中学校までは勉強するが実験や野外観察をすることはほとんどなく、多くの高校では学ぶことすらできない状況にある。こういった中、地学、とくに大地に関する地質学に触れられるジオカレッジはそれだけで他にない大変特異的で貴

重なものであると考えられる。教員だけでなく、授業補佐の我々の多くも、現在ほとんど教えられていない地学を学ぶ学生である。子供たちにとって、大地の営みを科学的にやさしく学べる場所として、これ以上の環境はないと考える。

#### (今後について)

私は現在、卒業研究とジオカレッジの一環として本地域の地質調査を行っている。研究内容がジオカレッジのスクールに活かされ、お世話になっている地域の方にご恩返しができるように頑張りたい。



図 調査地域・引田海岸の礫岩層



図 和泉層群 福栄地域上流部

(著者連絡先)

前川滉樹 まえがわこうき

九州大学理学部地球惑星科学科

〒819-0395 福岡市西区元岡 744 番地

E-mail

[maegawa.koki.551@s.kyushu-u.ac.jp](mailto:maegawa.koki.551@s.kyushu-u.ac.jp)

TEL 080-8901-5103

## ジオカレッジ夏スクール 2024 体験報告 ～ジオラマ工作を中心に～

高知大学工学部地球環境防災学科

4 年 小田和佳

### ・はじめに

私は、香川県東かがわ市の旧福栄小学校で開催されたジオカレッジという小中学生を対象とした地球科学体験イベントに初めて参加させていただきました。このイベントは、地球科学の知識を子どもたちに楽しく学んでもらうことを目的としており、3 日間という短期間で様々な活動が行われました。様々な活動の中で、全員で一つの作品を作り上げたジオラマ工作について報告させていただきます。

### ・ジオラマ工作

今回のジオラマ工作では「虎丸山と白鳥石鎚山」をテーマにしました。これらの山は地質による地形の違いが特徴的で、地形の理解を深めるには最適な題材です。そこで、ペットボトルのキャップを用いて、標高 50 メートルごとに高さを表現しました。この方法により、山の高さや傾斜を視覚的に示し、子どもたちに地形の変化を直感的に理解してもらうことができました。

ジオラマ制作のプロセスは、まず等高線が印刷された厚紙を切り貼りし、その後、厚紙に色を塗り、最後に厚紙とキャップを交互に重ねました。約 90 分と限られた時間内で作り上げるは大変でしたが、子どもたちが協力し合いながら一生懸命取り組む姿が非常に印象的でした。この体験を通じて、子どもたちの学びが一層深まったことは間違いのないと思います。自分たちの手で作品を完成させる喜びを感じる姿が、参

加者全員にとって大きな成果となりました。

### ・最後に

ジオカレッジでの体験は、子どもたちが地球科学に対する興味を深めるだけでなく、楽しみながら学ぶことの重要性を再認識させてくれました。ジオラマ工作を通じて、子どもたちの積極的な姿勢を見ることができたのは非常に嬉しかったです。貴重な経験を提供してくださった先生方、子どもたち、そして関係者の皆様に関心を持っていただき、心より感謝申し上げます。ありがとうございました。



\*ジオラマ工作の様子。



\*完成した作品.

<著者連絡先>

小田和佳 (おだのどか)

高知大学工学部

780-8520 高知県高知市曙町 2-5-1

E-mail b213u012t@kochi-u.ac.jp

TEL 088-844-8694

ジオカレッジ夏スクール 2024 体験報告 ～盆踊りと宿泊時の小事件～

高知北高等学校

ジオカレッジ TA 池原 諒

はじめに

ジオカレッジ夏スクール 2024 は、8 月 8 日から 10 日の 3 日間にかけて香川県東かがわ市旧福栄小学校を中心に行われた。私は TA として昨年度に続いて夏スクール 2 回目の参加となった。

TA は私を含めて 5 名。参加生徒は 13 名で 4 班に分かれ各班に TA が 1 人以上いる配置で、2 泊 3 日の中で主にジオに関する授業を学習した。ここでは、特に盆踊りと子どもたちについて書いてみる。

1) 盆踊り：参加生徒と地元住民の交流

合宿 1 日目の夜、2 日目の本番に向けて生徒一同体育館で踊りの練習を行った。地元のおばあさんの方々が、新しくみられていた。2 年前から始まった交流盆踊りだが、すでに亡くなっている方がいると聞き、地方の人口減少の現実を感じている。この場に立って、私は練習しながら今この空間にいることが非常に意味のある貴重な体験をしているのではないかと考えていた。

私の住んでいる高知県南国市の中心部は住宅開発が進み、かつて田んぼだった土地は軒並み一軒家が立ち並ぶ地域である。当然住宅開発が進むにつれ人口も多くなっていったが人口が増えたからといって、ジオカレッジのような地元の方、特に高齢者の方々との交流する機会が増えることはなく、ましてや地域に根付く踊りを教われるなどの密に接する機会はなかった。

そんな中、夏スクールは、普段と違う小学生を中心に、大学生などの若い TA・講師の方々そして地域の人と交流できる貴重な場、なのだ改めて肌で感じる事ができた。私はおばあさん方とお話をした際、知らない知識を教えてもらった。そして、おばあさん方から「元気をもらったよ」言っていた。この、若い世代と地域住民、特に高齢者の方々

と接することができる場、そして、お互いがお互いに影響し合える空間が、非常に価値のあることだと感じた。ジオカレッジを通してこのようなかけがえのない貴重な体験をもっともっと多くの小学生に経験してもらいたいと思う。

2) 子どもたちの小さな事件

夏スクール初日の夜 10 時、参加生徒の 1 人が、「一緒に参加している友人が無くしものをしたから今から“今日行ったところ”を一緒に探しに行ってほしい」と相談しに来た一幕があった。監督役として許可するわけにいかず、明朝捜索に出るという形に落ち着き、結果的にはベッドの隙間で見つかった。しかし、多感な彼らにとって、当分忘れられないイベントであり、捜索に出かけていけば生涯話のネタとなっていたことだろう。

このような印象深い友人や周りの人との思い出は小学校の年代の子において非常に大切であり、その場に私も関わったことが何より嬉しかった。

3) おわりに

私は昨年に続いて夏スクール 2 回目の参加となったが生徒の成長をさまざまな場面で感じた。同時に、人に物を教える難しさを再認識でき、私にとっても非常に有意義な 3 日間だった。



<夏スクール 2 日目盆踊りの様子>

<著者連絡先>

池原 諒 (いけはら りょう)

[ryoikehara117@icloud.com](mailto:ryoikehara117@icloud.com)

070-4360-1903